

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Uooh！療育ラボ 中野野方スタジオ		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 6日		～ 2025年 3月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2025年 3月 16日		～ 2025年 3月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> マンツーマンにより、それぞれの子供に応じて、楽しく丁寧かつきめ細かな療育が強みです。 また、子どもが楽しく集中して取り組めるようにプログラムの展開方法があることも強みです。 保護者の方に療育内容を高く評価をいただいている事も当事業所の強みとなっております。 子どもが楽しく通所しております。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団療育も個別療育もお子様1名に対し、1名の担当スタッフがつきます。 子どもそれぞれの好きな事、興味の分析と課題の分析を行っています。 その分析を基に、子供それぞれが楽しく課題に集中できるプログラム展開方法を構築しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 感動の瞬間があるプログラムのさらなる開発とそれぞれの子供に応じた発達段階の向上に向けた精度をさらに高め、より子供が楽しく、集中して、安心して取り組める場を構築してまいります。具体的にはプログラム開発の研修をさらに増やしてまいります。
2	<ul style="list-style-type: none"> 子供の気持ちののらない課題に対しても、楽しく気持ちを切り替え取り組むことができます。 その時期、時期によって保護者の方が気になる事、取り組んで欲しい事を柔軟且つタイムリーにオーダーメイドでプログラムに取り込むことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供それぞれの場面に応じた気持ちの切り替え方法を研修にて共有しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 切り替えの方法を動作からの視点、言葉かけからの視点、展開法からの視点、空間的な観点からの視点、心理的な観点からの視点毎に体系化を図ると同時に実際の現場に生かせるように研修、ミーティングを行ってまいります。
3	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ間の連携、チームワークが良く、事業所の雰囲気の良い事が強みです。 その結果、スタッフが明るく楽しくプログラムを展開できることも強みです。 	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ間の連携性を高めるロールプレイ研修を行っております。 スタッフそれぞれの強みを生かした役割分担を行っております。 立場を取り払い、それぞれの意見を出す平場の機会をつくっております。 	<ul style="list-style-type: none"> スタッフそれぞれの個性を生かすと同時に、全体の理念に沿った連携をさらに高めるために全体状況の共有、平場での意見交換、スタッフそれぞれの得意、強みを組み合わせた相互扶助体制の確立をさらに精度高く行ってまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> SNS等での情報発信 業務のDX化 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の事務作業の体系を、DX化する際に既存で販売しているDXパッケージと整合性が取りづらいことが課題となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務をDX化し、業務効率化を図るために、既存のパッケージを使うのではなく、新規にシステム構築をする方向で検討しています。
2	<ul style="list-style-type: none"> 地域の子供たちとの交流イベントは行っておりません。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別、集団共にマンツーマンでの療育ですので、地域の子供たちとの交流等をご希望の保護者の方が少ないと考えられます。保育園で地域の他児とは交流しているのでは望んでいない等のご意見もありました。 集中、集約した時間で、発達の飛躍的な向上の瞬間を創ること、伸び伸びした時間での地域イベント参加等の散漫な体験を比較した場合、子ども個人の確立後に、地域の連携の体験に入る方が得られる体験の質に違いが出るかと思われます。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の方のご希望があった際には、療育の質が高い地域連携プログラム、イベントの模索を行ってまいります。子ども個人の確立が不鮮明な状態では、地域の普段知らない子どもたち、関係性のない他児との連携イベントを行ったところで質の高い体験には繋がらないと考えております。子どものデメリットにならないような不成功体験に繋がらないように慎重にプログラム、イベントを考案する必要があると考えています。(保育園等でのイベントも拒絶感があるお子さまは特に注意が必要と思います。)。通所している子どもたちにとつての安全拠点としての場である視点との兼ね合いも含めて慎重な検討を行ってまいります。特に保育園の中での交流と違い、障害児通所支援事業所に通う子供たちという括りも地域の健常児の子供たちとのくくりでの交流会はかえってノーマライゼーションを阻害すると考えております。
3			